

はじめの一步

テクニカル分析

ハンドブック3(初級編②)



NTAA[®]
The Nippon Technical Analysts Association

国際テクニカルアナリスト連盟 (IFTA) 加盟
日本テクニカルアナリスト協会[®]
特定非営利活動法人 (NPO 法人)

はじめに

本小冊子は、前号「はじめの一步 テクニカル分析 ハンドブック2(初級編①)」に続いて、テクニカル分析とは何かについて、さわりの部分の続きをお話します。

テクニカル分析には様々な手法がありますが、ここではオシレーター分析、サイクル分析、出来高分析、パターン分析、その他の手法についてご紹介します。投資手法には順張りとは逆張りがあります。順張りは価格推移のトレンドに沿ってポジションを持つ方法、逆張りはトレンドが反転することを期待して、トレンドと反対方向にポジションを持つ方法です。テクニカル分析には、順張り、逆張りそれぞれに適した手法があり、用途に合わせて使い分けます。また、コンピューターの普及により、テクニカル分析がどのように変化したか、ロケット・サイエンティストとはどのような人たちかという話もご紹介します。

本書をご覧になることにより、投資家が何を考えてテクニカル分析を考案したのか、テクニカル分析とはどういうものかについて、興味を持っていただくきっかけとなれば幸いです。私たち日本テクニカルアナリスト協会が推進している「テクニカル分析」は、皆さんの資産運用の一助になることを確信しています。

Introduction

目次

A	テクニカル分析のBCとAC	3
1.	BC時代のテクニカル分析	3
2.	AC時代のテクニカル分析	4
B	オシレーター分析	6
1.	オシレーター分析とは	6
2.	順張り投資	7
3.	逆張り投資	8
4.	スイングトレード	11
5.	オシレーターの種類ーRSI	12
6.	オシレーターの種類ーストキャスティクス	14
7.	両方の性質を持つ分析手法	15
8.	ボリンジャーバンド	16
C	サイクル分析	18
1.	サイクル分析の発展	20
2.	ロケット・サイエンティスト	22
D	出来高分析	23
1.	出来高分析に関するテクニカル指標	24
2.	逆ウォッチ曲線(需要曲線)	25
3.	高頻度取引(HFT)の影響	26
E	パターン分析	27
1.	日本のパターン分析	28
2.	海外のパターン分析	30
F	一目均衡表	32
	終わりに	34

A

テクニカル分析のBCとAC

キリストの誕生を境として西暦をBCとACに分けることがあります。テクニカル分析においてもBCとACという言葉があります。ただし、テクニカル分析の場合、Cは“キリスト”ではなく、“コンピューター”のCを表します。Before Computer BC、After Computer ACがテクニカル分析でのBCとACというわけです。

米国のApple社が、一般の個人でも買えるコンピューターとしてApple Iを発表したのは1976年です。しかし、コンピューターが普及期を迎えたのは1980年以降です。BCとACの境もこの時期となります。海外では1981年にIBMがmodel 5150を、日本では1982年にNECがPC-9801を発表したことが背景にあります。

1. BC時代のテクニカル分析

コンピューターが普及する前(BC)は、複雑な計算も計算尺などを用いた手作業で行っていました。このため、テクニカル分析は時間と労力のかかる分析手法とされていました。

また、ある売買シグナルが出現した後の株価分析も手作業で行われていました。その手法は、チャート上から任意のシグナルを抽出し、それを元に騰落を計算、集計するものです。

このため、今以上に主観的な判断が強く出る可能性があり、目立つシグナルや使いやすいシグナルで分析するおそれがありました。

ACの時代に入りコンピューターによる分析や、計算の高度化が進みました。この結果、BCの時代に考案された伝統的手法の中には、思い込みや後付け講釈、客観的な有効性を持たないものが含まれていることが分かりました。

2. AC時代のテクニカル分析

一般家庭にも高性能なコンピューター(PC)が普及し、複雑な計算ができるようになりました。検証に必要な価格データの取得も、インターネットなどを通じ簡単に行えるようになりました。いまや、だれでもテクニカル分析・売買シグナルの有効性を検証できます。また、独自の売買シグナルを考案することも可能になりました。テクニカル分析はPCの普及によって、より身近な手法になったといえます。

経済原理の1つである行動経済学では、投資家の合理的な投資判断に対し疑問符がついています。例えば、保有する株式が評価損となった際の投資行動などで指摘されています。

評価損とは、その時点の市場価格で反対売買をして決済すると損失が発生する状態を指します。長期の資産運用を始めるにあたっては、何らかの判断支援ツールが必要です。テクニカル分析には一長一短があります。売買シグナルは、その計算式の違いからマーケット動向によって信頼性が変動します。つまり、投資に必勝法はなく、期待リターンが高い投資先・投資タイミングを見つけることが求められます。その時、転ばぬ先の杖となる1つがAC時代のテクニカル分析とも言えます。



B

オシレーター分析

オシレーター分析を理解するには、まず順張りとは逆張りを理解した方がよいでしょう。トレンドの方向に沿う投資をする手法を順張り投資、略して順張りといいます。一方、トレンドが反転することを期待して、トレンドと反対方向に投資をする手法を逆張り投資、または逆張りといいます。

1. オシレーター分析とは

オシレーターとは、振り子の錘(おもり)のことです。振り子は鉛直を中心として往復運動をしますが、このように、ある値に回帰する性質を持つ指標をオシレーターと呼び、オシレーターを使う分析手法をオシレーター分析といいます。オシレーター分析は、「買われ過ぎ」や「売られ過ぎ」を分析し、トレンドの転換点を判断する手法です。その活用シーンでは、一般的に順張りという投資判断を用いることが多くなります。順張り投資(順張り)とは、トレンドの方向に沿った投資手法です。逆に、トレンドと反対方向に投資をする手法を逆張り投資(逆張り)といいます。

ただ、強いトレンドが発生すると、オシレーターは往復運動をせず、片側に張り付いてしまうこともよくあります。これはオシレーターのダマシ(投資収益に結びつかない売買シグナル)といわれるもので、投資判断の際にはトレンド発生の有無を確認するなど注意が必要です。

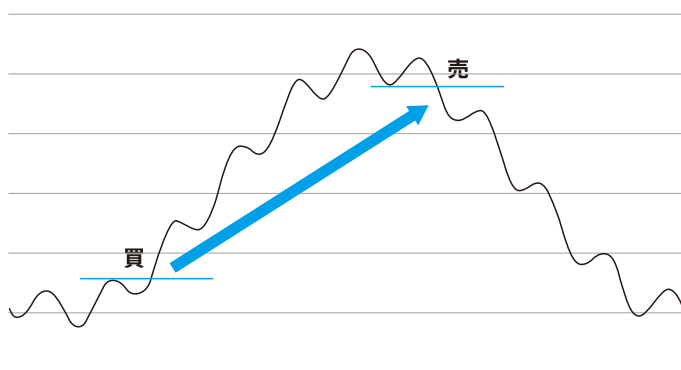
2. 順張り投資

上昇トレンドでは、価格が安値と考えられる水準で買い、一定程度上昇したタイミングで売却し利益獲得を狙います。下降トレンドでは、価格が高値と考えられる水準で空売りをし、一定程度下落したタイミングで買い戻して利益獲得を目指します。価格推移の方向に沿った売買を行うため、一般に分かりやすい投資手法とされています。

この投資手法は、投資後のトレンド継続を前提とし、価格変化が大きいほど利益が大きくなります。半面、投資後すぐにトレンドが反転すると含み損となる場合があります。

順張り投資では、トレンド分析を用いることが多いとされています。その売買シグナルは、新しいトレンドが発生してから確認できるように設計されています。このため、売買シグナルの点灯は実際のトレンド転換よりも遅行します。

したがって、順張り投資は、投資期間が数カ月以上の中期～長期投資に向けた手法とされています。



順張り投資は大きなトレンドを利用する

3. 逆張り投資

トレンドが上昇に転じると買い注文が集まりやすいとされ、狙った指値では買えないことがあります。また、トレンドが下落に転じた後は、多くの売り注文が集まることで、なかなか売却できないこともあります。希望通りの売買が行えないことで、投資収益が悪化することになりかねません。

もし、トレンドの転換をより早く判断できれば、投資収益の最大化を目指せるかもしれません。そこで、トレンドが転換したら、なるべく早く投資判断をする逆張りの発想が生まれました。価格が上昇トレンドから下落に転換したと判断したら売却。下落トレンドから上昇トレンドに転換したと判断したら、あらためて買い建てます。

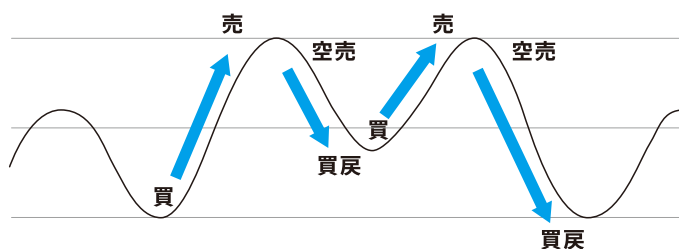
オシレーター分析は、一般的に逆張り投資に使うテクニカル分析です。ただし、日々の小さな価格転換に対してもシグナルを発することもあり、ダマシも多くなるとされています。テクニカル分析において、ダマシとは、結果的に収益機会がなかった売買シグナルのことを指します。

逆張り投資で利益を上げるのは、マーケットやオシレーターに対する理解と経験が求められます。必ずしも大きな利益が得られる投資機会が多いわけではなく、損切り(損失を計上して手仕舞うこと)が求められる局面もあります。オシレーターのみを投資判断に用いるのは、投資期間が数日程度の短期投資に向けた手法と言われています。

1回の投資期間が短くなると、トータルの売買回数が増える傾向にあります。売買回数が増えると、投資手数料などの売買コストが積み重なるおそれがあります。短期売買では、手数料が投資収益の悪化につながることも考慮する必要があります。

ります。近年、インターネット専門証券の台頭により、売買手数料の引き下げや一部無料化などが進んでいます。自らの投資スタンスに合った証券会社の選択も資産運用の第一歩と言えます。

加えて、逆張り投資では見込み違いによる損切りも多く発生するので、順張り投資よりも収益とリスクをきめ細かく管理する必要があります。



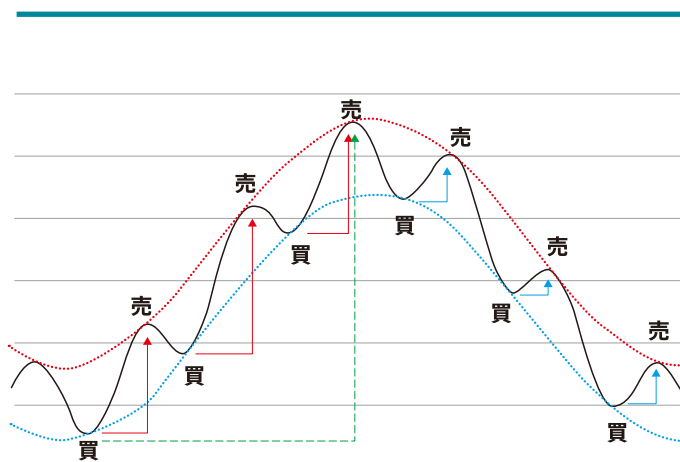
逆張り投資は細かいトレンドを拾う

4. スイングトレード

上昇局面でも下降局面でも、価格は一直線に進むのではなく、短期の上下動を繰り返しながら推移します。上昇局面全体での上昇幅は、短期上昇幅の合計から短期下落幅の合計を引いた分であり、理屈の上では、短期上昇をすべて拾う方が、利益総額も大きくなります。

また、下降局面であっても短期の反発が含まれているので、買いで利益を上げることができることもあります。このような投資にもオシレーター分析は適しています。

このような投資手法を「スイングトレード」といいます。この手法の欠点は、売買回数が多くなるため手数料がかさみ、投資収益を圧迫することです。しかし、手数料の低いネット取引の普及で、個人投資家でも実行可能な手法になりました。とはいうものの、熟練者向きの手法であることに変わりはありません。



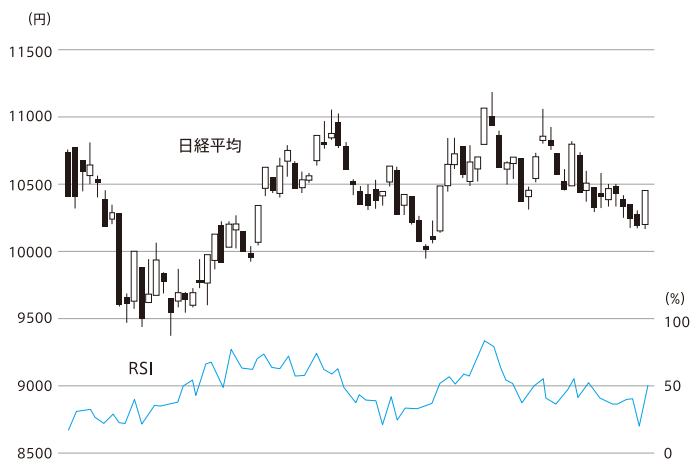
赤線の合計は緑線より大きくなる

5. オシレーターの種類－RSI

RSIは、相対力指数とも呼ばれ、J・ウェルズ・ワイルダーが考案しました。ワイルダーは様々な指標を考案し、1978年に“New Concepts In Technical Trading Systems”という本で発表して好評を得ました。

RSIは、一定期間における日々の前日比騰落値幅のうち、上昇値幅の合計がどれだけあったかという比率を計算しています。

したがって、計算期間中の全日で上昇していればRSIは100に、下落していれば0になります。しかし、通常はそのような一方的な展開になりづらいため、100か0に接近すれば反転が近いと判断します。また、RSIは高水準や低水準が続けば、強いトレンドが発生していることが分かります。

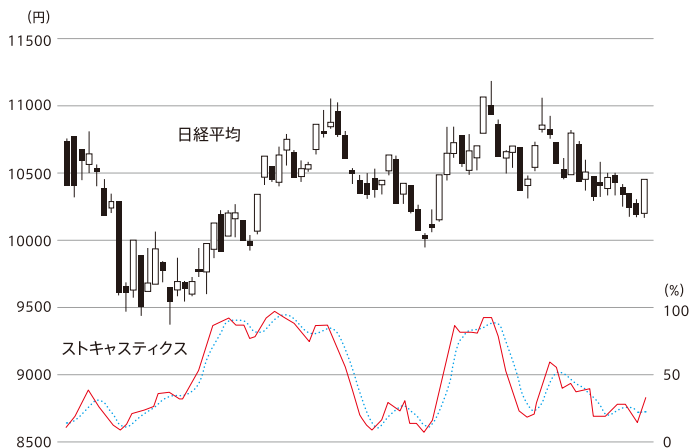


6. オシレーターの種類 ー ストキャスティクス

ストキャスティクスは、C.ラルフ・ダイスタントが経営する投資教育学校の講師チームが考案し、1957年にジョージ・レーンが発表しました。

ストキャスティクスは、一定期間における最高値と最安値の中で、直近終値が最安値からどれだけ上の位置にあるかという比率を計算しています。

したがって、計算期間中の全日で終値が新高値となる日が続けばストキャスティクスは100に、終値が新安値となる日が続けば0になります。しかし、通常はそのような一方的な展開になりづらいため、100か0に接近すれば反転が近いと判断します。また、ストキャスティクスは高水準や低水準が続けば、強いトレンドが発生していることが分かります。



日経平均(日足)とストキャスティクス

7. 両方の性質を持つ分析手法

トレンド分析の指標は、短期の価格変化を排除して大勢を抽出するように作られており、トレンドが明確な場合に使います。一方、オシレーターは、トレンドを排除して短期変動を抽出するように作られており、トレンドが明確でない場合に使います。それぞれを反対の局面で使うと、ダマシの売買シグナルが多くなり、損失を被ることも少なくありません。

現実の相場では、トレンドは上昇下降にかかわらず強くなったり弱くなったり、あるいは不明確になったりする。どちらにも対応できるように、トレンド分析とオシレーター分析の両方を常にチェックしている必要があります。

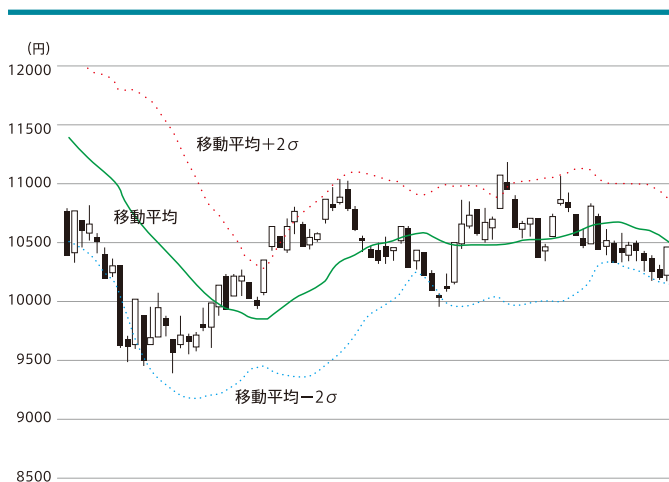
ところが、中にはトレンドが発生していればトレンドの方向を示唆し、トレンドが転換すればそれを示唆するという、両者の性質を持つ指標があります。これらはトレンドに追随する順張り投資にも、転換点を捉える逆張り投資にもどちらにも使える指標です。

8. ボリンジャーバンド

ボリンジャーバンドは、米国のジョン・ボリンジャーが1990年ごろに発表した指標です。株価は移動平均値を中心としてその上下に正規分布すると考え、株価の標準偏差を求めます。そして移動平均線に標準偏差の2倍の値を加算した補助線と減算した補助線を引きます。理論的には2本の補助線の間に約95%の株価が入ります。

通常の相場では、株価は移動平均線を中心として推移し、下の補助線に接近もしくは割り込んだら反騰し、上の補助線に接近もしくは突破したら反落する傾向がみられます。この場合には、株価が補助線の近くで方向転換することを前提として投資を行うことになります。これはオシレーター系の逆張り指標としての使い方といえます。

一方、長期間上昇もしくは下降が続いた後は、2本の補助線の間隔が狭くなり、その後トレンドが反転すると、片側の補助線を押し広げるように推移することがあります。この場合には、株価の推移に追随する投資を行います。新しいトレンドが発生したと考えられ、これはトレンド系の順張り指標としての使い方といえます。ボリンジャーバンドは、移動平均線を応用した手法のため、トレンド分析に含められることもあります。



日経平均(日足)とボリジャーバンド



C

サイクル分析

景気に好不況の循環があることはよく知られています。景気が拡大すれば企業業績も好転し、景気が後退すれば企業業績も悪化します。株価は企業業績を反映する鏡といわれています。景気拡大期には株価が上昇し、景気後退期には株価が下落する傾向がみられます。株価は景気循環に呼応し、おおよそ上下する周期性を持っていると考えられます。

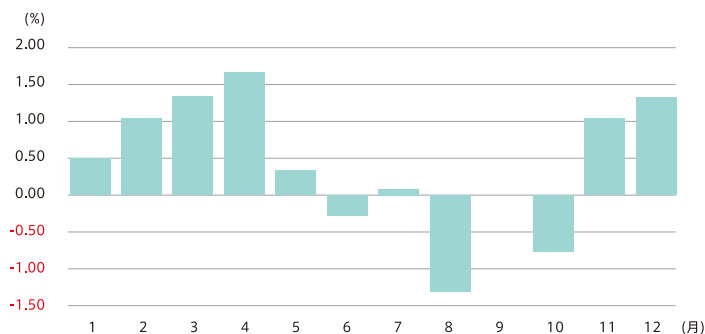
アイスクリームやキャンプ用品などの売上高は、夏に伸び、冬は伸び悩む傾向がみられます。一方、コートやウィンター・スポーツ用品などの売上高は、冬に伸び、夏は伸び悩む傾向がみられます。このように、事業内容によっては企業業績に季節性がみられ、株価変動につながる場合があります。



日経平均は景気拡大期に上昇しやすい
(着色縦帯は景気循環日付に基づく景気拡大期)

トレーダーは週末に積極的な売買を手控える傾向がみられます。通常、休日に発生するリスクを回避し、週明けにポジションを再び構築しようと考えます。また、月末や月初、年度の期末や期初にも同様の動きがうかがえます。以上のような投資家の行動が、価格推移の周期性につながっているとの見方もあります。

株式市場にとどまらず、その他の金融市場でも同じような流れがみられます。さらに、複数の市場において相互に影響合います。したがって、価格推移は様々な要因で生じた周期性を持っていると考えられます。その周期性を知れば、市場の売られすぎや買われすぎの水準を探ることもできます。そこで、価格推移を研究し、特徴的なサイクルを抽出することがサイクル分析です。投資タイミングを探る上で有用なツールの1つにつながるといえます。



日経平均は4月に上昇しやすい(過去30年間の平均)

1. サイクル分析の発展

価格変化を「波」の動きになぞらえたのは、日本では本間宗久、米国ではチャールズ・ダウが最初と考えられていますが、いずれも「波」をトレンドとして捉えていました。

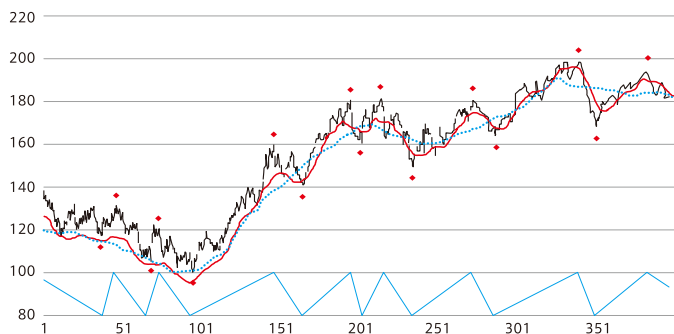
「価格変化に周期性があるのではないか」。この考えから詳しく研究したのは、米国のウォルター・ブレザートが最初です。1970年代に研究を進めて1981年に“The blue book : How to use cycles with an overbought/oversold index and a momentum index for more consistent profits”を出版しました。

ブレザートは、価格推移の節目となる底から次の節目となる底までを1つのサイクルと考え、オシレーターを用いてサイクルの天底を判定する手法を考案しました。

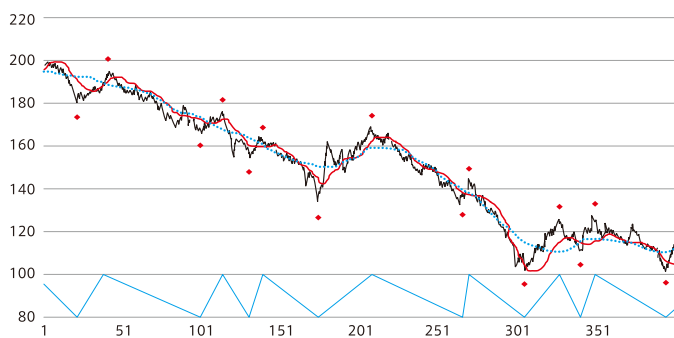
彼の提唱では、上昇局面ではサイクル全体における4分の3程度が上昇し、残りの4分の1程度が下落に相当するとしています。サイクルの山が中央よりも右へずれる「右方移転」を発見しました。下降局面ではサイクル全体における4分の1程度が上昇し、残りの4分の3程度が下落に相当するとしています。サイクルの山が中央よりも左へずれる「左方移転」を発見しました。

米国のレイモンド・メリマンは、「メリマン・サイクル」の考案者です。1996年に邦訳本が出てから、日本でも知られるようになりました。「メリマン・サイクル」は、占星術とサイクル分析

を融合した独特のマーケット分析です。占いを信じるのは人それぞれです。ただ、相場を探る上では、客観的なデータに基づいた分析を優先した方が無難といえるでしょう。



上昇局面では天井がサイクルの中心より右にずれる



下降局面では天井がサイクルの中心より左にずれる

2. ロケット・サイエンティスト

1972年、月へ有人飛行船を送るアポロ計画は終了しました。のちにNASA(米航空宇宙局)から大量の科学者が解雇され、彼らの一部はウォール街へ転職しました。物理学には音声・電波、流体力学など様々な波動の研究があります。これらの知識を応用し、新しい分析手法や投資手法が考案されました。

物理学を取り入れた新しい分析手法は、金融工学と呼ばれるようになりました。金融工学を研究する人をクオンツ・アナリストといいます。米国で彼らをロケット・サイエンティストと呼ぶのは、前述のような経緯があるためです。以上のことから、物理学者がマーケット分析を行うようになり、サイクル分析は大きく変化しました。



D

出来高分析

Volume analysis

出来高は、需要と供給を反映しているといわれています。価格が上昇してくると、より上昇することを期待して買い注文が増えると同時に、利益確定の売り注文も増えて出来高は増加します。

価格が下落してくると、ポジションを解消しようとする売り方の注文は増加する一方、買い方は下げ止まるまで様子を見ようとして買い注文は減少します。下落の途中で買えば、買った途端に含み損を抱えます。買い単価を低くしようと投資家は慎重姿勢をとります。買い注文が減少すれば、売り注文が多くても出来高は減少します。

このように、出来高は買い注文の増減に応じて変化します。その背景には買い手や売り手の思惑も挙げられます。そこで、出来高の増減から将来の価格推移の強弱を探ることが出来高分析です。

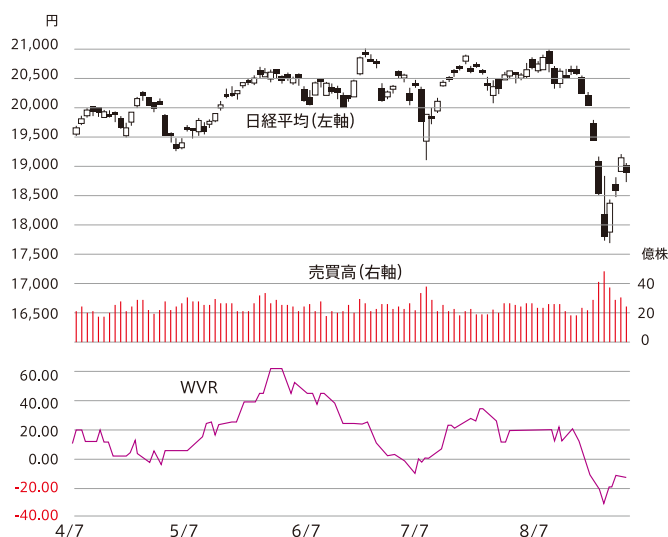
なお、株式では出来高、商品先物は売買高といいます。

出来高は約定した数量のことで、株式の場合は売買高と同じです。他方、商品先物での売買高は買い数量と売り数量の合計のため、出来高の2倍相当に増えます。

1. 出来高分析に関する テクニカル指標

価格が前日比で上昇した日の出来高は買い手(需要)によるもの、前日比で下落した日の出来高は売り手(供給)によるものと考えます。日々、需要による出来高を加算、供給による出来高を減算して累積を計算したり、一定期間の需要による出来高計と供給による出来高計の比率を求めたりするなどして、その推移を分析します。

一般的に、上昇局面では数値は増大傾向となり、下降局面では数値は減少傾向となりますが、転換点の手前で変化が表れて予兆となる場合があります。



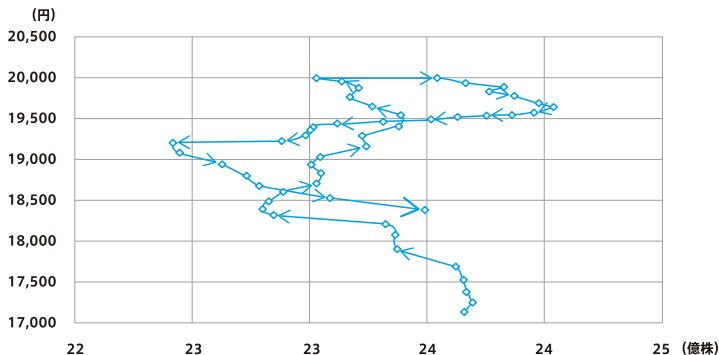
需要分析(ワコーボリュームレシオ)

2. 逆ウォッチ曲線（需要曲線）

縦軸を価格、横軸を出来高としてグラフを描くと、次の8ステップで推移する反時計回りの線が描けます。

- ① 価格は低位で横ばい、出来高が増え始める。
- ② 価格は上昇、出来高は増加する。
- ③ 価格は上昇、出来高は伸び悩み。
- ④ 価格は一段高、出来高は減少し始める。
- ⑤ 価格は高値圏で横ばい、出来高は減少する。
- ⑥ 価格は下落、出来高は減少する。
- ⑦ 価格は下落、出来高は低位で横ばい。
- ⑧ 価格は一段安、出来高は増え始める。

逆ウォッチ曲線はキレイな円形を描かず、長期上昇局面では右上へ、長期下降局面では左下へ変形する傾向がみられます。これは、上昇局面では出来高が増加し、下降局面では出来高が減少するためと考えられます。



日経平均週足の逆ウォッチ曲線

3. 高頻度取引(HFT)の影響

現在ではコンピューターを用いて、1000分の1秒単位で売買を行う高頻度取引(HFT=High Frequency Trading)の市場関与率が高まっています。HFTはコンピューター・プログラムに基づいて売買が行われます。短期的な利ざやを狙う手法から、大口注文を小口化して市場影響度を抑制する手法まで、様々なプログラムがあります。



E

パターン分析

価格推移の大勢が大天井をつけたり大底をつけたりして方向転換する時の価格推移には類型があり、現在までの価格推移の大勢から今後の展開を予測しようという手法があります。フォーメーション分析、あるいはパターン分析ともいいますが、海外ではパターン分析と呼ばれることが多いため、パターン分析といいます。

大きな好材料が出れば、株は買われて上昇し、悪材料が出れば売られて下がります。価格が大きく動けば、買い手や売り手の投資判断や投資家心理に影響を与え、それに応じた投資行動が起こります。

投資家心理は、銘柄や時代、人が変わっても大きくは変わらないことから、ある特徴的な価格推移が起こった後の相場推移は、過去の類似例に似た歩みになるかもしれません。これが、フォーメーション分析のコンセプトです。

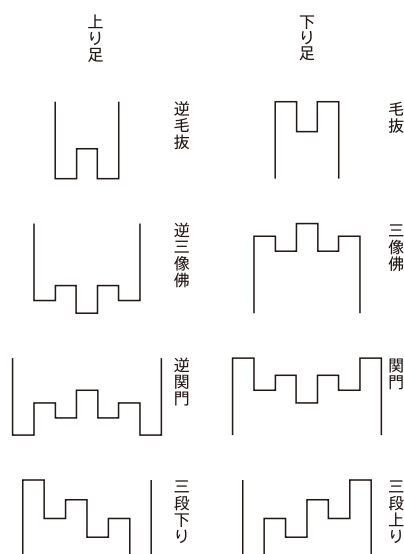
しかし、価格推移の結果パターンが形成されるか否か、パターンが形成されたならどれに該当するかは、すべてが終わった後でしか分かりません。したがって、価格推移の途中で、ある特定のパターンが形成されるものと期待しない方がよいでしょう。

パターン分析の基本的な使い方は、将来の価格推移として可能性があるものを複数、事前に想定して、どのようなシグナルが出た時にどのような決断をすべきかを検討する、投

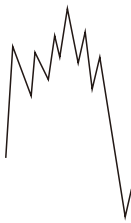
資のシミュレーションをすることです。あらゆる場面を想定して心の準備をしておくことで、どのような相場展開にも慌てず対処することができます。

1. 日本のパターン分析

パターン分析に関する最も古い記述は、1890年に武藤信吉が出した『米商必携出世の鏡』でしょう。その中で「相場の高下を前知せんとするには前々の相場の足取を見定め置是迄の高下に照し潜思熟考会心の所に至りて売買仕掛かる事肝要ならん」と述べ、相場の先行きを予測するには、過去のチャートと直近の騰落を比較してよく考えることが大切であると指摘しています。



一方、図に示したものでは、1901年に青木伝吉が出した「著者実験定期売買之秘伝」があります。そこには天井をつけて下落に転じるパターンとして「毛抜」「三像仏」「関門」「三段上り」、底を打って上昇に転じるパターンとして「逆毛抜」「逆三像仏」「逆関門」「三段下り」が、広く一般に信じられていると紹介しています。



天井極りて
下に向かう



底極りて
起き上がる



陰の満玉
陽の三五



一陰一陽



下げの内の
上げ



天井保合

本間宗久が用いた罫線形式（パターン分析）とされる図

早坂二菊「相場罫線術講義」1904から一部を抜粋

チャートの時間軸は右から左

2. 海外のパターン分析

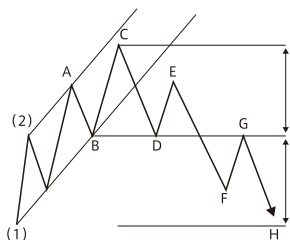
海外では、米国のロバート・エドワーズとジョン・マギーが1948年に出した“Technical Analysis of Stock Trends”(『株価トレンドのテクニカル分析』)が最初でしょう。ダウ理論、トレンドライン、フォーメーション分析について、理論と実践を解説した本で、現在でも新しい知識に基づいて加筆訂正が行われ、改訂版が出ています。

ここで紹介されているパターンには、ヘッド・アンド・ショルダーズ(三尊)、三角持ち合い、レクタングル(もみ合い)、トリプル・トップ、ダブル・トップ、ブロードニング、フラグ、ウェッジ、ギャップ(窓)などで、現在知られているフォーメーションは、ほぼすべて網羅されています。

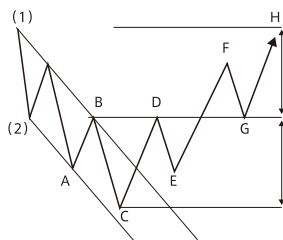
日本では大勢反転のパターンが重視されているのに対し、米国では大勢転換に加えて、中段もみ合いのパターンも多いのが特徴的です。



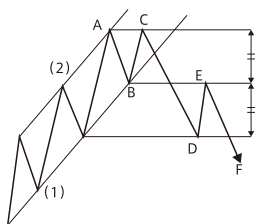
主なパターンの種類



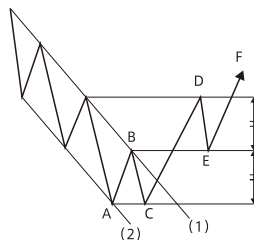
ヘッド&ショルダーズ・トップ



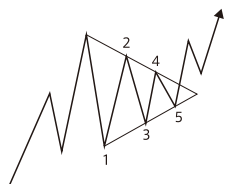
ヘッド&ショルダーズ・ボトム



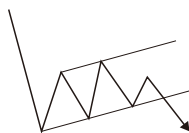
ダブル・トップ



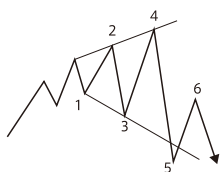
ダブル・ボトム



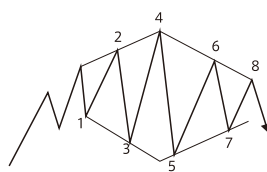
トライアングル



フラッグ



ブロードニング



ダイヤモンド

F

一目均衡表

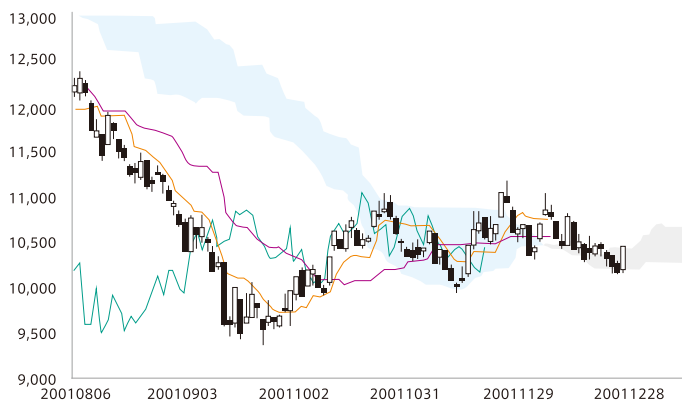
昭和初期に細田悟一氏が考案した相場理論です。同氏は都新聞の商況部長を務め、一目山人のペンネームで知られるようになりました。延べ2,000人ともいわれる学生アルバイトを使って相場の周期性、変化率などを調査してまとめたとして、知的所有権は(株)経済変動総研が引き継いでいます。

過去における一定期間の最高値と最安値から転換線と基準線を計算し、転換線が短期トレンドを、基準線が中期トレンドを示唆します。基準線と転換線が共に上昇していれば上昇トレンド、共に下落していれば下降トレンドにあると判断します。転換線が基準線を上回れば相場が上昇基調に転じ、転換線が基準線を下回れば相場が下落基調に転じる予兆となります。

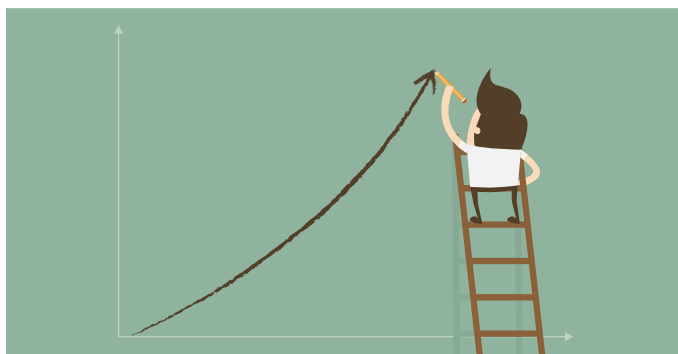
同様に過去の最高値と最安値を元に計算した値をチャートの将来の位置に記入して先行スパン1、先行スパン2とします。両者に挟まれた部分を雲と称し、雲が価格よりも下にあれば価格の下値支持帯となり、上にあれば価格の上値抵抗帯となるとされます。

また、当日の終値を過去の位置に書き込んだ線を遅行スパンといい、遅行スパンが過去の価格を上回れば強気転換、下回れば弱気転換とされます。

この他、将来相場が転換しやすい日柄の計算や、上昇や下落の値幅目途を探る計算値など、大きな理論体系となっています。現在では海外でも人気が広がり、世界的に利用者が増えつつあります。



日経平均の一目均衡表



終わりに

本小冊子は、資産運用と関連の深いテクニカル分析を知っていただき、学んでいただく1つのきっかけになればと思い書かれたものです。

資産運用の要諦は、安く買って高く売ることですが、どこが安くどこが高いかを判断するのは、極めて難しい問題です。特に運用期間が1年か5年か、それとももっと長いのか、期間の取り方によって価格水準の捉え方も変わってきます。

その際に知っておきたいのが、ファンダメンタル分析とテクニカル分析という手段があるということです。すべては学ぶことから始まります。NISA(小額投資非課税制度)は、それを実践する場です。

相場の世界は、アノマリー(科学的に説明のできない事象、相場の世界では経験則を指すことが多い)が多くありますが、過去の経験も大切なことです。あまり欲張らずに一步一步前進していきましょう。

本小冊子は、テクニカル分析の普及啓発を目的として書かれています。ご質問は当協会へご遠慮なくどうぞ。

Conclusion

「投資の日」、ご存知ですか？

1996年4月1日、より多くの方々へ証券投資に興味・関心を持っていただき、「貯蓄から投資へ」の流れを加速させる思いを込めて、日本証券業協会が「10(とう)」「4(し)」の語呂合わせから「証券投資の日」(10月4日)を制定しました。「とうしくん」は「証券知識普及プロジェクト」(証券投資の日)のマスコットキャラクターです。日本橋兜町生まれの男の子。より多くの人に「投資」を身近に感じていただきたい願いから2007年に生まれました。



10月4日生まれの子。ほのぼのとした外見ながら、今後大きく成長する期待大。
兄弟がほか9頭いる。(日証協ホームページより)

「証券知識普及プロジェクト」は
マスコットキャラクター「とうしくん」を作って投資を応援しています。

少額投資非課税制度(新しいNISA)と運用

生涯非課税での運用も可能 新NISA

「貯蓄から投資へ」を積極化するため、2014年に少額投資非課税制度(通称NISA)が始まり、10年目の2024年からは大幅な制度の拡充が図られます。新NISAでは、年間投資枠も大幅に増加し、現在の「一般NISA」(※株式等を含む運用)が「成長投資枠」に変更され、「つみたてNISA」も今後は「つみたて投資枠」となり、非課税保有期間も無期限となります。枠の再利用もでき、生涯非課税での運用も可能になります。

皆さんに平等に用意された入れ物は徐々に整ってきましたが、日本の個人金融資産は今でも安全資産が半分以上を占めています。この入れ物を最大限に生かすにはどのように考えればよいのでしょうか？

ファンダメンタル分析やテクニカル分析の知識を身にまとい、長期運用でよりよい成果を上げることが求められています。せっかくの制度ですから、大いに勉強してよりよい成果を目指しましょう。



「つみたてワニーサ」は、
NISAでのつみたて投資と皆さんの資産形成を応援する
金融庁公式キャラクターです。

テクニカル分析を勉強したい方へ

当協会の資格制度は、国際テクニカルアナリスト連盟(IFTA、International Federation of Technical Analysis)の資格制度に基づいています。

NTAA認定テクニカルアナリスト

CMTA®(Certified Member of the Nippon Technical Analysts Association)

誰でも挑戦できる初級レベルで、テクニカル分析に関する基本的な知識及び使用方法を学びます。約半年の通信教育の後、試験によって習熟度が判定されます。NTAAの資格です。

IFTA認定テクニカルアナリスト

CFTe®(Certified Financial Technician)

CMTA®取得者を対象とした中級レベルで、テクニカル分析を用いた適切な現状分析と投資判断の仕方を学び、マーケット・レポートが作成できることが求められます。約半年の通信教育の後、試験によって習熟度が判定されます。日本語で受験できる国際資格です。

IFTA検定テクニカルアナリスト

MFTA®(Master of Financial Technical Analysis)

CFTe®取得者を対象とした最上級レベルで、テクニカル分析に関する新たな手法、視点について論じた英語の論文を提出し、審査されます。国際資格です。



皆さん、通信教育講座を受けて、
資格試験にチャレンジしましょう。

発行済みのハンドブック

はじめの一步

テクニカル分析 ハンドブック(基礎編)

本小冊子は、資産運用に際しての「テクニカル分析」の導入部分を分かりやすく説明することを目的にしています。

したがって、すでに投資経験の豊富な方やテクニカル分析について知識のある方には“物足りない”小冊子です。

さらに奥深く学ぼうとする方は、当協会通信教育講座のほか、様々な参考文献が出版されておりますので、積極的に学んでいただきたいと思います。



発行済みハンドブック2

はじめの一步

テクニカル分析 ハンドブック2(初級編①)

本小冊子は、前号「はじめの一步 テクニカル分析 ハンドブック(基礎編)」に続いて一步進め、テクニカル分析とは何かについて、さわりの部分のお話をします。

テクニカル分析には様々な手法がありますが、ここではローソク足、トレンドライン、移動平均線の3つについてご紹介します。

ローソク足は、日本で考案された価格記録法で、始値・高値・安値・終値の4本値だけを記録しているにもかかわらず、その時々相場状況を示唆してくれます。現在では世界中で利用されています。

トレンドラインと移動平均線は、価格推移の大きな傾向、すなわちトレンドを知るための手法です。このような分析手法をトレンド分析といいます。トレンド分析は、かなり古くから使われていたようですが、広く普及したのは、ここ半世紀のことです。



はじめの一步 テクニカル分析ハンドブック3(初級編②)

2017年4月1日 初版第1刷発行

2025年7月1日 第2版第1刷発行

非売品

発行所 特定非営利活動法人 日本テクニカルアナリスト協会

〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町3-3

TEL 03-5847-2231 FAX 03-5847-2232

URL <https://www.ntaa.or.jp>

E-mail office@ntaa.or.jp

編集者 古城 鶴也

編集人 関 三男

発行人 車野 幸利

デザイン 杉野 寿一

印刷所 スターツM株式会社

本誌掲載記事の無断転載・複製を禁じます。

